

## インドネシア統一地方選、現地速報からみえる展開

～重要州で与党連合が勝利も、野党連合も一矢報いる状況～

発表日：2018年6月28日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 主席エコノミスト 西濱 徹(03-5221-4522)

### (要旨)

- インドネシアでは27日に統一地方首長選が行われた。同選挙は来年の総選挙及び大統領選の「前哨戦」として、与野党ともに注力してきた。同国の地方選では中央政界の与野党が入り乱れる節操のない選挙が展開される傾向があるが、今回は重要州で与野党一騎打ちの構図もみられ、次期選挙にとって重要な意義がある。
- 公式結果は来月発表されるが、現地報道などによる速報段階の動きをみると、大票田のジャワ島の3州で与党連合が勝利した模様だ。ただし、最終盤にかけては野党連合が存在感をみせるなど接戦も展開された。
- 現状は与党勝利に伴いジョコ・ウィ大統領には追い風になるとみられるが、野党は惨敗とは言えず今後劣勢を跳ね返す余地はある。足下では国際金融市場の動揺に伴い通貨ルピア相場安圧力が強まり、中銀は利上げに迫られるなど苦境に直面している。政府の財政政策はファンダメンタルズの悪化を招くリスクもあり、対応を誤れば一転して野党が優勢に立つ可能性もあるなど、不確実性が高まりやすい展開が続くであろう。

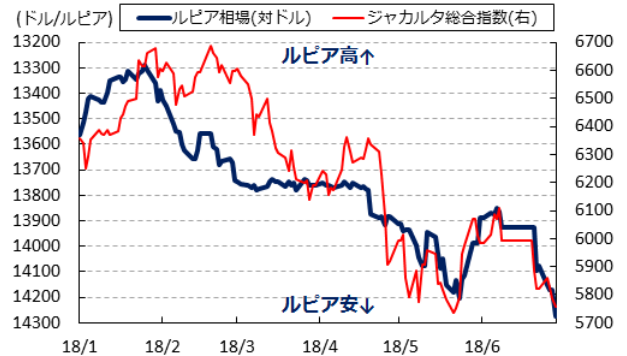
- インドネシアでは27日、州知事をはじめとする171自治体(17州、39市、115県)の首長を選ぶ統一地方首長選挙の投開票が行われた。今回の統一地方首長選は、来年に実施される議会下院(国民議会)の総選挙及び大統領選の「前哨戦」として位置付けられており、現職のジョコ・ウィドド(ジョコ・ウィ)大統領及び最大与党の闘争民主党(PDI-P)にとっては次期総選挙での議席上積み及びジョコ・ウィ氏再選による政権2期目実現を見据える上で重要な選挙である。その一方、2014年に行われた前回の大統領選で接戦の末に敗れ、次期大統領選での捲土重来を期す野党グリンドラ党党首のプラボウォ氏にとっては、今回の統一地方首長選で与党に肉薄、ないし勝利を収めることが出来れば次期大統領選での当選に弾みが付くことが期待される。よって、今回の選挙を巡っては与野党が重要州などで有力候補者を立てることにより、次期総選挙及び大統領選に向けた情勢判断を行う材料となっている。なお、中央政界においてはジョコ・ウィ大統領に対する個人的人気を背景に、同氏が所属するPDI-Pを中心にゴルカル党など多くの党が与党連立を形成しているものの、地方選挙については与野党問わずに各政党が有力候補に合従連衡する形でぶら下がる節操のない選挙戦が行われる傾向があり、同国政界を巡る旧態依然とした体質は大きく変わっていない模様である。ただし、今回の統一地方首長選では有力州において与野党が一騎打ちするほか、ジョコ・ウィ氏及びプラボウォ氏の側近が直接対決する構図もみられるなど、次期選挙を見据える上で大きな意義を有している。
- 選挙管理委員会による公式の選挙結果は来月9日に発表予定であるものの、現時点では様々な調査機関による窓口調査などが速報として発表されており、大票田であるジャワ島の3州(西ジャワ州、中ジャワ州、東ジャワ州)において与党連合が勝利を収めたとみられる。ただし、西ジャワ州知事選を巡っては、当初はジョコ・ウィ氏に近いとされる同州都のバンドン市長であったリドワン氏(与党連立を組む開発統一党(PPP)など4党が支持)と、同州副知事のデディ氏(与党連立を組むゴルカル党などが支持)の一騎打ちとみられていたが、最終盤に野党グリンドラ党が推す元軍人のスドラジャット氏が猛迫した。現地速報などによると、リドワン氏が優勢の状況は変わらないものの、スドラジャット氏は2番手に付けるなど健闘した模様であり、プラボウォ氏にとっては望みを繋げられる惜敗になった可能性がある。また、中ジャワ州では与党PDI-Pが現職

ガンジアル氏を推したのに対し、野党連合はジョコ・ウィ政権内でエネルギー・鉱物資源相を務めたスティルマン氏を擁立した結果、速報ではガンジアル氏が優勢の状況は変わらないものの、スティルマン氏も一定の存在感をみせた模様である。東ジャワ州では、有力候補2者がともに同国最大のイスラム団体であるナフダトゥール・ウラマ（NU）出身という異色の争いになったが、前社会相として知名度が高いコフィファ氏（与党連立を組む民族各政党（PKB）出身）が同州副知事であったサイフラ氏（PKB及びPDI-Pの公認）を抑えた模様である。なお、サイフラ陣営の副知事候補はスカルノ初代大統領の孫であるプティ氏であったため、PDI-Pは叔母のメガワティ党首も選挙戦に駆けつけたが、同州での知名度の低さがネックになったとみられる。現時点において野党候補が勝利しているのは北スマトラ州とみられ、グリンドラ党などが推した元軍人のエディ氏がPDI-Pが推す落下傘候補のジャロット元ジャカルタ州知事を大きく引き離したとみられる。

- 現時点で得られる選挙速報などによると、ジョコ・ウィ大統領に近いし現在与党連合に属する政党が推した候補は重要州で勝利を収めるなど、次期総選挙及び大統領選に向けては現職にとって有利な状況にあると判断出来る。ただし、上述したように次期大統領での捲土重来を期すプラボウォ氏及び野党連合にとっては、現状は決して惨敗と呼べる状況ではなく、今後の展開次第では劣勢を跳ね返すことが出来る余地は充分にある。

前回の総選挙及び大統領選については、与党はジョコ・ウィ氏個人の人気頼みで選挙戦を展開してきた傾向があり、足下でも政権支持率が依然高止まりするなかでそうした状況は大きく変わっていない。しかし、今回の統一地方首長選では内閣改造で閣外に出た元閣僚が野党候補として出馬する動きが出るなどほころびも出ている。足下の経済成長率は5%程度と堅調な推移をみせているものの、以前のような勢いにはほど遠い状況にあるなか、国際金融市場の動揺に伴う通貨ル

図 ルピア相場(対ドル)と株式相場の推移



(出所) Thomson Reuters より第一生命経済研究所作成

ピア安圧力の高まりを受けて中銀は先月に2度に亘って立て続けに利上げに動かざるを得ないなど苦境に直面している。また、国際金融市場における動揺の動きを受けて株式相場も調整するなど、通貨安による業績への悪影響が懸念されている。直近のインフレ率は依然として中銀の定めるインフレ目標の範囲内に収まっており、物価上昇が意識される状況にはないものの、さらなる通貨ルピア安の進展は輸入物価を通じてインフレ圧力の昂進を招くほか、昨年来の原油相場底入れの影響が顕在化することも懸念される。政府は次期総選挙などを見据えて今年度予算でバラ撒き型の予算を志向する一方、こうした動きは経済のファンダメンタルズ（基礎的条件）を悪化させるリスクがあり、対応をしくじれば一転して野党に風が吹く可能性もあるなど難しい状況に置かれており、当面は不確実性が高まりやすい状況が続くと予想される。

以上